

因島高校を支援する会

発行 校 会
因島高 支 援 会
支 援 会 長 竹 中 啓 修
会 員 竹 中 啓 修
題 字 竹 中 啓 修

地域から信頼される学校に



会長 竹中啓修

皆さんこんにちは。
いよいよ因島高校の新校舎が完成します。今月十九日に新校舎の見学会が開催されます。皆様のご来校をお待ちいたしております。

さて、支援する会が設立して一年余り、私たちは、「因島高校のオーナーは、保護者や因島の市民である。地域から信頼され、愛される学校にしよう」とを合言葉に努力を重ねてまいりました。その結果多くの面が改善され成果が現れてきました。しかしながら、皆様の期待通りになっていない点も多々あるでしょう。

そこで今年、次の重点をおき頑張っていきたいと思っております。

まずは、生徒の進路保障であります。因島高校に進路の不安があるために、毎年多くの中学卒業生が、島の外へ進学してしまっています。好んで島外へ進学しているのはありません。「地元の子どもは地元の高校へ。」これは進路保障で結果を出さない限り実現できません。

進路保障は、学力保障です。社会では学歴よりも学力がついているものを採用します。高卒・大卒とあるのは、当然その学力がついていると思うからです。因島高校を卒業させて、高校卒業の学力をつけてやれなかったとしたら、それは社会を欺くことになるのではないのでしょうか。信頼を得る事にはならないのではないのでしょうか。

因島高校視察団 二月オーストラリアへ視察

因島高校は、PTAや支援する会とともに国際化および、因島高校の魅力向上の一環として、海外語学研修(ホームステイ)を調査研究してききました。桶東校長も、前任の御調高校長時代、PTAや、御調高校育英会とともに、同校の海外語学研修を実現させたことから、「是非因島高校でも取り組みたい。」と意欲的で、二月に視察団が予定先のオーストラリア、カプーチャ市を訪問することに

なりました。(自費参加)
カプーチャ市は、オーストラリアの首都キャンベラから北一五〇キロにある、海岸沿いの小都市。海岸に島がいくつかあり、そのうちのひとつ、ブライビー島での語学研修を計画しています。
その島に一つの高校ブライビーアイランド高校との交流を選定した理由について、村上正則PTA会長は、次のように話しています。
「海外研修先進校である庄

いでしょか。
そこで、支援する会としては、学力向上のための「早期放課後補習・春夏の学習合宿・代々木ゼミサテライン・海外語学研修」などの実施に関して全力で支援しより充実させたいと考えています。
次に、地域から信頼される学校創りです。

今までの学校には、社会の常識と違う学校の常識というものがありました。これがあ限りの学校はいつまでも地域の信頼を得ることができません。

学校も一般の会社と同じで、学校や教師は地域(消費者)のニーズに的確に答えなければならぬと思います。教育サービスを受ける側に立った学校の経営を考えていただきたく思います。耳障りのいいことだけで実践できなければ、またも地域から見放されるでしょう。

例えば、生活指導の問題です。確かに先生方の努力で、茶髪はいなくなり、制服・ネクタイも着用してきて落ち着いてきた感があります。しかし、多くの遅刻者や一部生徒の授業妨害と対教師暴言などの授業妨害と対教師暴言など

原格致高野山分校は、リンゴが名産で冬は雪に覆われる地理的条件にある。従って、同じような環境の地を探して、そこにある高校と交流を図つたところ双方とも親近感が生まれ大変好評であった。それ以後一段と親交が深まっているという。よって因島高校の場合も、因島と同じような口ケーションのところをお世話をしてもらいた。

ブライビー島は、オーストラリア本土と一本の橋で結ばれ、また、島の大半が国立公園になっており、温暖な気候の土地柄であり、因島と大変似通っています。

問題もまだあります。先生方の中には色々な考えもあるとは思いますが、本人のために是非厳しいご指導をお願い致します。

そして私たちは、まじめに勉強したい生徒が十分にできる学習環境・学習規律を確立していきたいと思っております。そのためには、それを阻害する要因を排除していく努力を先生方とともに重ねていきたいと思っております。今年も皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



オーストラリアは、外国語を日本語とする学校もあり、日本語熱も高く、大変親日的です。

クインズランド州では、日本から毎年六〇〇〇人もの語学研修生を受け入れており、ブライビーアイランド高校でもこのご縁をとて喜んでいてのことです。
二月の視察会では、カプーチャ市長および、市議会の訪問も予定されて、受け入れも準備万端のようです。



12月 市議会をたより

十二月、因島市議会が開催されました。一般質問の中から、学校教育に関する質疑についてご紹介いたします。(要旨)

教育(高校存続)の支援について

因島高校は新校舎が完成し、三学年が落ち着いた雰囲気の中で勉学出来る条件が整つ。保護者、学校が一体となり、最高学府への進学を十分保障できる魅力ある学校づくりに始まっている。島の子がゆとりを持って学び、部活動にも打ち込めるよう、地元高校の存続は町づくりの問題である。行政としてどのような姿勢で、支援を行っていくかお聞きしたい。

宮地康福教育長答弁
新因島高校は、学力保障、生徒指導両面で格段の取り組みをされ、いまだ課題はあるものの着実に成果をあげておられると認識している。
市教育行政としては、先の「市内一斉どこでも参観日」

宮地康福教育長答弁
因島高校は、学校、保護者、行政、市民支援団体が一体となつて進めれば、いい結果が出てくると確信している。

オーストラリア・カプーチャ市長代理 村上因島市長を訪問

一月七日、オーストラリアカプーチャ市ジョイリシユマ市市長の代理人が、村上和弘因島市長を訪問しました。
「カプーチャ市長は、因島高校の語学研修を機会に、姉妹校提携も視野に入れ、自治体同士も交流が親密になることを歓迎しています。」との親書に、村上市長は、「因島は、国際交流の歴史は古く、何百年も前から、東南アジア、ベトナム、シンガポール等と交流をしているのですよ。」と話したところ、「移民を始



因島市長に市民交流を申し入れ

因島高校の海外語学研修について

榎本清文議員
因島高校では、魅力ある因島高校にするためPTAとともに海外語学研修(ホームステイ)の実施に取り組んでいますが、行政や地域住民の理解協力が必要である。

高校の海外研修を実施している他の町では、行政が助成金を出し、地域ぐるみでの支援がなされていると聞く。
因島の場合、どのようにお考えか。

宮地康福教育長答弁
因島高校、同PTA、支援する会が、県内先進校の調査を行い、平成十四年度実施に向け、現在企画立案中で、企画書を持って市長に助成の要望に來られた。
海外研修(ホームステイ)

学校教育について

村上 光議員
先般の東生口での市政懇談会において、参加した市民から、「組合の先生には担任してもらいたくない」という切実な要望が出された。東生口小学校では、かなり以前より学校長を中心とした学校体制がとれず、一部組合員により学習指導要領の問題など、地域や保護者の要望が聞き入れられない状態にあると聞いています。学校は、一部組合員のものなの、子ども保護者、地域のためにあるのかという根本的な問題をこの市民は問うていると思つた。

市民が子どもを安心して任せられる学校教育が、一日も早く確立されることを強く要望する。
宮地康福教育長答弁
市政懇談会における市民の

の意義については、生徒が目的をもって学ぶことの再認識をすること、たとえば、英語検定の受験、ラジオ講座の聴講。さらに現地に行つて、言葉は不十分でも心は通じると実感し、日本人としての自覚と、国際人としてのあり方を自問する。こういう経験は、青年期のいい経験となる。
実施校では、研修生たちは帰国後地元小中学校で、研修報告会をするなどして、いい意識の喚起もしてくれているとのことだ。
以上のことから、行政が一定の助成をしていく必要があると考えている。今全市民が支援とエールを送り、魅力ある高校づくりに新しい発想と大きなスケールで人材を育成しなければならぬ。関係者の努力に敬意を表すると共に出来るだけの支援体制を組んでいきたい。

声を引き合いにされ、是正の内実を危惧されていることを、市教育委員会として厳しく受け止めている。
是正指導をうけて、「中立と公開」をキーワードに全力で取り組み、その結果、制度上や書類上ではおおよそ完了したと考えているが、意識の中でいまだに根深くこのついでにもあり、個人差、学校差があるのも事実である。
学校の教職員組合も教育公務員の範囲内での活動が許されるのであり、教育現場に運動やイデオロギーを持ち込むことは許されない。また、校長が法に則り責任を持つて判断しようとしたときそれを拒むことは違法行為である。さらにストライキのような争議行動や選挙活動に関わることは禁じられている。
市民の声を謙虚に受け止め、さらに一層の是正と教育改革に全力で当たる所存である。

因島市区長連合会 豊田邦生会長に聞く



因島市区長連合会 豊田邦生会長

一月十八日、因島市区長連合会豊田邦生会長が、因島高校を訪れました。新校舎を見学していただいた後、因島高校に対しての期待と意気込みについて桶東愛生校長と村上正則PTA会長が伺いました。

「僕がいつかいいいて驚きました。バス停まで送り迎えしている親も多そうですね。」

村上 行きたくて島外へでているのでなく、因島高校で将来の不安があるから、やむを得ず行っているのです。

村上 新校舎を見ていただきましたがいかがですか。

豊田 立派ですね。どう生かすかでしょうね。因島高校のことを余り知らない人が多いですから、どんどん来てもらって見せてもらうことですね。特に中学生や保護者に。

桶東 因島高校を支援する会が設立され、市民ぐるみで高校を守るという感覚になってきました。会報を区長連合会さんのご協力で市内全戸に配布していただいているお陰だと感謝しています。

豊田 先日、朝早いバスに乗った時、インターのバス停など、島外の高校へ通学する生徒が、

は優秀な造船マンを育成し、彼らが因島の造船を支えてきていましたね。

桶東 因島高校など県立高校が足踏みしている間に私立高校が着実に力をつけてきました。

村上 因島高校の魅力度を高めるため、有名予備校の授業を衛星放送で受講できるサテライト講座を導入しました。

また、国際化も視野に、海外語学研修(ホームステイ)を計画中です。海外研修実施の県北の高校をいくつか訪問しました。町が研修費用の一部を補助するなど町ぐるみで取り組んでいました。私達も因島市へ補助を申請し協力を要請しています。

豊田 現在、因島市も予算や補助金のお見直しをしていますが、いいことは市も協力補助していくべきだと思います。戦後の子ども時代、「先生の影を踏んではいけない」と

というふうな、先生を尊敬する風潮が十分残っていましたし、信頼も厚かったです。

村上 戦前の有無を言わさぬ上下関係から、「みんな平等だ」という教育方針に変更しましたが、今度はそれが行きすぎて、学校でも、親子でも会社でも、上下関係をわきまえぬようになってしまいました。友達感覚です。

豊田 保護者は、先生に厳しい指導を望んでいます。サポートも、点を取らなくても怒らない先生が生徒に喜ばれていますが、キツチリ厳しくする先生には、子どもは姿勢を正していますよ。

桶東 二、三年前は、茶髪の生徒が多数いましたが、今はゼロになりました。いろいろ問題行動を起こす生徒もいますが、地道な指導を続けて随分良くなりました。何度が指導して聞かない場合、保護者と呼んで注意しています。

豊田 先生が悪いと短絡的に言う人がいるが、そうではないで、子どものやる気が問題です。小さいときから競争のない生活をおくっていますから、厳しさがありません。

村田校長の講演「因島教育の課題と今後の取り組み」(今後のPTAに期待するもの)は、次号に掲載致します。

クラブ活動も、「しんどい、グサイ」と言っている子が多い。

桶東 クラブでは、吹奏楽が熱心で県大会でもいい成績をあげています。本校のクラブ活動の中では部員も多すぎ、練習も熱心にやっています。運動クラブもそれぞれ活躍していますし、顧問の先生方も優秀な先生がいます。

豊田 中学でも先生が少なくなりクラブの指導が十分できません。民間にも優秀な体育指導者がいますから、高校でも中学でもクラブ活動のコーチや監督に来てもらい、鍛えてもらったらどうですかね。

桶東 文部科学省は、ゆとりを増やせといっていますが、週五日になりましたが、一方では学力保障のために補習学習に力を入れようとしています。

村上 週五日といっています。私立高校は土曜日も授業補習を考えているようです。土曜日もサテライト講座とか補習を組んでほしいですね。

桶東 瀬戸田地区では、三原方面に進学する生徒が多かったです。通学時間のこともあり、瀬戸田中学と瀬戸田高校が協議して、今年から瀬戸田高校へ進学するものが増加する方向になったと聞いています。

村上 島外へ通うのは子どもも大変です。因島でも、先生方の力を結集して、そうやってほしいです。

桶東 因島高校では、他県の先進校等を先生方に視察に行ってもらい、学力を十分つけている高校や、生徒指導に力を入れている高校を視察し、因島高校での取り組みを考えたいと思っています。

豊田 先生の中には因島高校OBも多いと思いますし、母校の再生を期待しています。

村上 「高校のことは先生とPTAがやっていたらいい」というのではなく、町中の人々が町の高校だという意識で盛り立てていただきたい。

豊田 いろんな会合で、因島高校の取り組みをPRすることです。私も、いろんな会合に出席する機会が多いので、応援させてもらいます。

桶東 村上 今日ありがとうございます。



新校舎を視察中の豊田会長と案内の桶東校長

会談の後、今生徒が勉強している仮設校舎をみてまわった。教室の入口には、生徒の運動靴が何足もバラバラに脱がれていた。

豊田会長は、さっとかかんで、そのバラバラの運動靴をひとつひとつキチンとそろえて並べられた。「こうしているのを見たら、彼らも何か気づいてくれますよ。」やさしく生徒を包んでくれる心の大きさを感しました。

因島高校PTA 全教諭にアンケート実施

〈魅力ある高校をめざして〉

因島高校PTAでは、全教諭に対してアンケートを実施しました。

内容は、高校の現状をどう思うか。問題点があると思うか。そのためにどうしたらいいと思うか。の3点です。PTAでは、この結果をもとに先生方と協議して、よりよい高校をめざしたいと思います。

合格体験記

鹿児島大学(理学部)
箱崎 壮輝

僕は高校に入る前までは自分の将来のことや興味のあるものについて真剣に考えたことはなかった。二年次になる前に選択科目を決めなくてはならなくなり、自分の将来を考えた。宇宙に興味を持って、宇宙に行きたいので、大学へ行って宇宙について深く学ぼうと決心した。

あるとき、先生が宇宙を学べる大学の一覧表をくれた。そのときに大学について考え始め、鹿児島大学へ行きたいと思った。受験することを決め、推薦入試も受けてみることにした。

鹿児島大学の推薦は小論文と面接である。小論文の過去の問題がほとんどわからなかった。担当の先生に補習をしてもらった。先生は本を読んだらいいというので、一週間一冊のペースで五冊ほど読んだ。いろいろ事例を例や文章で説明できるようにするために問題も作ってくれた。放課後残って面接の練習もした。

市民の投書箱



主任の先生は、主任手当を組合に出していると聞かされた。因島の先生も出しているのだから、主任手当といっても、私たちの税金から賄われているものではない、主任制反対を言っている組合に主任手当を出すのは、それってなにか変だと思えます。

(土生町・中学生の母親)

昨年、市内一斉に学力診断テストが行われたそうだが、各学校の水準はどのようになつたのでしょうか。私の息子の通う中学校は、因島で一番低いと噂されています。現状と分析して来年はどのようにするのかハッキリ保護者に説明して頂きたいものです。そうして頂かないといつまでも学習塾に頼らざるを得ません。

(中学生の保護者)

市内小中高合同 PTA役員研修会開く

十二月十四日、因島市内小中高のPTA役員が一同に介し、研修会を実施しました。提唱者、因島高校PTA村上正則会長は、「よりよい教育環境を創って行くため、PTAも結集し研修していきましょう」と呼びかけました。

一昨年、「因島高校を支援する会」が発足しましたが、因島の教育現状は現在流動的であり、高校の問題は小中学

生の関心の的です。また現在小中学校の統合も検討されています。各校が、連携して教育課題を島ぐるみで考えていくことが必要です。

因島小学校校長、村田積穂会長(土生小学校長)の基調講演があり、続いて宮地康福教育長からは、「因島の将来を担う子ども達のために、PTAのみならずの力を借りてほしい。」と話がありました。

その後、桶東愛生校長から「因島高校もPTAや、支援する会のご尽力により、みなさんに期待される高校に向かっています。これからもお力添えをお願いします。」と挨拶と高校のPRがありました。

最後に、岡野長寿市PTA連合会長から、「市内のPTAが結集して、よりよい因島を築きましょう。」と結びました。小中高PTAの会長会設立も計画されています。

ご意見・ご要望をお待ちしています。下記までご連絡下さい。

入会のご案内

みなさんのご支援ご協力をよろしくお願い致します。入会及び入会金の受付は下記へご連絡下さい。

因島高校PTA事務局

重井校舎(赤畑教頭) ☎8452・4・1281
土生校舎(藤本教頭) ☎8452・2・2133